

# フランス視察を踏まえての提言書

平成27年12月22日

民主こうべ政策議員団

## フランス視察を踏まえての提言書

平成27年11月2日(月)より6日(金)まで、5日間をかけてパリ、リヨン、マルセイユの3都市の視察調査を行いました。報告書を提出したところではありますが、全体を通しての切り口も含めて、政策につなげやすいよう、提言書としてまとめることにしました。

来年に控えるマルセイユ市との姉妹都市55周年や、これまで北野・山本地区が10年をかけて育んできたモンマルトル地区との交流、更には、市長自らトップセールスを行っていただいたリヨン、ローヌ・アルプ州との連携など、目の前に具体的な果実が実ろうとしていたり、蒔かれた種子が水を待っていたりと、それぞれに異なる状況とは言いますが、私たちの目線で直接見聞きをし、相手先と会話をかわしてきた結果が、今のこの機会にそれぞれの成長につながるきっかけになることを期待します。

視察1日目に訪問したユネスコ本部で、創造都市ネットワークの一員として、神戸からの発信力も大いに求められていることを痛感しました。創造都市には何が求められているのかと思いを馳せ、改めてユネスコ憲章の目的を考えると、明治の開港以来、多数の外国人を受け入れ、外国人や外国文化と共に発展してきた神戸市には、多文化共生の街として多大な可能性が秘められていると再認識するに至りました。多文化が共生かつ融合しながら時代を作り、更には一緒に震災を乗り越えてきた、他の街には無い特別な強さもこの街にはあるはずです。もう一度、つなげられてきた文化やコミュニティを再認識して、教育やまちづくりに活かしていくことが、未来の市民や街を創造し、シビックプライドも醸成していくことにもつなげられると確信し、提言内容に盛り込みました。

**「BE KOBE」** 神戸は人の中にある。

注； <ユネスコ憲章第1条>

この機関の目的は、国際連合憲章が世界の諸人民に対して人種、性、言語又は宗教の差別なく確認している正義、法の支配、人権及び基本的自由に対する普遍的な尊重を助長するために教育、科学及び文化を通じて諸国民の間の協力を促進することによって、平和及び安全に貢献することである。

## I. 提言概要

### 1. 都心再開発に対する提言

- ① 都心ウォーターフロント・・・船に乗る人も船を見る人も呼び込んでいく
- ② 環境共生のまちづくり・・・都心に自然を呼び込もう
- ③ 歴史のある建物の有効活用・・・古い建物の「時間」を活かす
- ④ 街の魅力アップの仕掛けづくり・・・デザイン都市の本領発揮

### 2. マルセイユとの海洋友好都市としての提言

- ① クルーズ船の集客・・・瀬戸内海と地中海は似ている
- ② 海洋技術・港湾技術に着目した交流・・・神戸は海の技術で発展してきた
- ③ 「マルセイユ」をネーミングした空間づくり・・・神戸の中に「マルセイユ」が誕生
- ④ マルセイユ総領事公邸での神戸フェア・・・マルセイユの中に「神戸」が誕生
- ⑤ マルセイユ・神戸ビジネス交流の拡大・・・これからは「友好」以上の交流を

### 3. 多文化共生と国際理解に対する提言

- ① ユネスコスクールの取り組み・・・神戸で育つ子、国際人に
- ② 国際政策の体制強化・・・ビジネス、交流すべてを包括する
- ③ 神戸市内の外国人社会・文化・学校・・・多文化共生をすべてに活かす

### 4. 医療産業の連携に対する提言

- ① リヨン・ビオポールと神戸医療産業都市の連携・・・  
市長努力のチャンスを逃さずに

### 5. 環境技術クラスター創成に対する提言

- ① 神戸市内の環境技術を有する企業のクラスター・・・  
COP21は「パリ協定」でスタート、フランスも力を入れてくる

### 6. 兵庫県パリ事務所を拠点とした観光・ビジネス交流の発展

- ① 人的交流の拡大・・・国際的な人材育成にトライ
- ② モンマルトルの丘／北野・山本地区交流をベースにした発展・・・  
10年間に更に今後の10年間につなげていく

### 7. 市長のフランス訪問に際して

- ① モンマルトルの丘・・・「モンマルトルの丘」名誉市民として迎えたい
- ② リヨン・ビオポール・・・医療でつながるリヨンと神戸

## Ⅱ. 提言内容

### 1. 都心再開発に対する提言

#### ① 都心ウォーターフロント

ポートターミナルについては、施設の設備的なリニューアルが行われたが、集客に寄与するとは言えず、普段は人影も見当たらない。中突堤のかもめりあ、ポートタワー周辺は、魅力的な地域でありながら、日頃の賑わいが欠けている。マルセイユのテラス・デュ・ポートには、停泊するクルーズ船を見ながらデッキでゆったりと憩い、買い物も楽しむ多くの人々が集まっていた。都心・ウォーターフロントの魅力アップのため、かもめりあ、ポートタワー周辺を、一元的に乗船ゲート、集客施設、駐車場を整えた魅力あるエリアにすることで、常時多くの市民・観光客が集まるスポットにする必要がある。そのためには、メリケンパーク・オリエンタル・ホテルやメリケンパーク、ハーバーランドとの連携も視野に入りたい。

都心から港を遠く感じさせている高速道路と国道2号線については、地下化することは大変な経費と工事期間を必要とするため難しいであろうが、一部地下化や、ビルをうまく使って道路をすっぽりと覆うブリッジなどを作ることによって、人の流れを作ることができるという示唆も得た。様々な方法を検討したい。

#### ② 環境共生のまちづくり

都心の再開発にあたっては、環境に配慮して進めることが必要だと考える。特に、再開発地区に自然に近い環境を整備し、小さな森を作り、池やビオトープなど水も配して野鳥の住めるような環境を作りたい。スマートシティをめざしてエネルギー利用の見える化を図るとともに、排熱利用など環境に配慮したエネルギー利用を考えていくことを積極的に進めるまちづくりを進めたい。

#### ③ 歴史のある建物の有効活用

既存の建物を壊して新しい施設を作る発想にとらわれず、歴史のある建物の魅力を活かした活用を大いに考えたい。マルセイユでは、穀物倉庫をフェリー乗り場を併設した商業施設に改装したり、ドックであった建造物を活かして集客施設を作ったり、20世紀遺産である建物を利用して地域の歴史を展示する博物館にしたり、という工夫がされていた。神戸に多くある港湾倉庫などは、大いに魅力ある施設に生まれ変わらせることができると考える。

#### ④ 街の魅力アップの仕掛けづくり

リヨンの街には、あちらこちらにビルの壁に「だまし絵」が描かれ、観光スポット

になっている。神戸市にはトリックアート美術館もあるが、室内作品だけでなく、街なかでの作品を作れば、新しい魅力アップの一つになるのではないか。

また、パリのモンマルトル地区にあるブドウ畑で収穫したブドウから作られるワインは、当該地区の区役所の地下で醸造されている。神戸でも、市役所など公的施設で、神戸ワインあるいは新しい地ビール醸造などを見せるような新しい魅力を作り出すことは可能ではないだろうか。北野地区で明治時代にあったオリーブ園に着目した取り組みが行われており、街にオリーブを増やしてオリーブ狩りを一斉に行って区役所でオリーブ油を絞るなど、色々と想像できる。

## 2. マルセイユとの海洋友好都市としての提言

### ① 瀬戸内海を活かしたクルーズ船の集客

(港湾の施設整備に関しては、上記のウォーターフロントの項参照。)

マルセイユ港では、豪華な大型客船も停泊していたが、多数のフェリーやRoRo船が停泊していた。マルセイユ港が、富裕層の娯楽としてのみでなく、一般市民が気軽に楽しめる地中海クルーズ船や、また、アフリカ大陸との往来の拠点としてのフェリー・RoRo船の港としてにぎわっていることに着目すると、美しい島々が連なり気候も温暖な瀬戸内海クルーズを再考する価値は十分にあると考える。瀬戸内海クルーズは、「瀬戸内海の路ネットワーク推進協議会」という瀬戸内海周辺の自治体の組織があるが、現在は、神戸市は積極的に参加をしていないようにもみえる。瀬戸内クルーズという観点で、協議会に声掛けをして、神戸から始め、瀬戸内の島々を巡る瀬戸内クルーズについて、外国人観光客が増えている現在、もう一度寄港時の歓迎の方法や、体験型のイベントなど、検討してみてはどうか。また、中国大陸からのクルーズ船が、福岡を始めとする九州地区に集まっているが、神戸空港と都市を結ぶチャーター便を使ったフライ&クルーズが考えられないか。更に、瀬戸内芸術祭を始めとし、島の魅力がアップしている中、神戸から発着するフェリーの利便性向上やイベントに合わせた諸施策について検討できないか。

### ② 海洋技術・港湾技術に着目した交流

マルセイユ市在住の仏日海洋学会会長、ユベール・J・セカルディ氏から、マルセイユ・神戸姉妹都市の将来的な連携について提言をいただいた。両市は互いに、港湾や海洋に携わる産業を中心に発展してきた経緯もあり、海洋技術・港湾技術など、特に海洋に特化した提言について、取り上げ、開港150周年の事業のひとつとして技術交流のシンポジウムや展示会など企画をしてはどうか。

### 《セカルディ氏からの海洋技術交流に関する提言》

岸壁形成や湾岸埋め立ての技術と管理運用、海洋の生物多様性の維持、海の自然やエコツーリズム、港湾と都心間の交通システム、港湾の防火・警備、水処理技術、須磨水族園などの博物館とマルセイユにできる海事博物館（Jacques Rougerie氏建築）との連携、閉鎖性水域での海洋環境保護に向けたマルセイユ会議の開催など。

#### ③ 「マルセイユ」をネーミングした空間づくり

神戸在住の市民、特に幼少時より神戸で育った知人に聞いても、マルセイユ市と姉妹都市である事実を知っている人は本当に少ない。せつかくの姉妹都市55周年に向けて、もっと市民に知ってもらおうきっかけとするために、例えば小さい公園や広場、橋、岬など、「マルセイユ」のネーミングをした公共のものを何か整備する。公園であれば、マルセイユの象徴として、オリーブの樹の植樹を行う。市民は、名前がついていることにより、なぜか？と思い、姉妹都市を意識するようになるのではないか。

#### ④ マルセイユ総領事公邸での神戸フェア

マルセイユ総領事の公邸は、マルセイユ市街地から車で40分くらいの郊外の住宅地にある。庭のある素晴らしい建物であり、現在の総領事が企画をされ、毎月、日本を紹介するイベントが開催されており、多数の人が訪れ、にぎわっていると伺った。来年の55周年の訪仏の前後に（あるいはその時に）神戸姉妹都市フェアとして、日本の中でも、特に神戸を紹介するフェアを開催していただくようにできないか。以降は、できれば毎年、年に一度は神戸の回にしてもらえるような広がりにつなげていけないか。

#### ⑤ マルセイユ・神戸ビジネス交流の拡大

これまで、姉妹都市としての事業は、主に友好交流に目が向けられてきた。マルセイユ市長、ロアタ副市長も、ビジネス交流を主眼とした上で、人と人との関係を深めていきたい旨の意思表示をされており、神戸の事前訪問の際にも、医療産業都市とバイオガスの視察をされ、事前準備になることと思う。神戸からのマルセイユ訪問団には、神戸の取り組む事業紹介ができるようセミナーの開催や企業など関係機関に訪問を促すなど取り組んでもらいたい。

また、マルセイユ側からも、神戸に紹介したいビジネスや連携を事前調査願い、神戸側でのマルセイユフェア、マルセイユウィーク、マルセイユ祭りなど、何らかの特別なイベントとして企画してもらい、市民や企業、学生などにマルセイユを知ってもらう取り組みを行ってはどうか。

### 3. 多文化共生と国際理解に対する提言

#### ① ユネスコスクールの取り組み

国際都市神戸として本当の意味で広く国際化を進めるためには、市民がそれぞれに多様性を受け入れていくことができなければならない。若い頃から世界に目を向け、国際理解を深めることによって、多文化共生を当たり前のことと受け入れることのできる児童生徒を増やし、国際的な人材に育成することを目指して、神戸でもユネスコスクールへの登録を進めていきたい。

#### ② 国際政策の体制強化

医療産業都市のさらなる発展や外資系企業の誘致、客船誘致、観光・MICE 誘致や、水ビジネスや物づくり技術の海外への売り込みなどは、広い視野を持って国際戦略として考えるべき事業であるにも関わらず、総合的に各事業をとらえている部署がないために、各局がそれぞれ縦割りでっており、組織横断的な海外へのアプローチがまだ不十分な状況にある。交流親善の推進だけではなく、国際戦略を立て、シティーセールスを強化できるような機能をもった組織の再編を行い、人員を増やして体制の強化をするべきはないか。

#### ③ 神戸市内の外国人社会・文化・学校

国際化の推進においては、生活者としての外国人にとっても住みやすいユニバーサルなまちをつくり上げることも大切である。神戸には、インターナショナルスクールも多く、外国人が日本人とともに神戸市民として永年育んできた多文化共生という素晴らしい土壌がある。多くの宗教もお互いに尊重し合いながら共存してきている。多様性を認め、包み込んで多文化共生社会をもっと市民も知り、神戸の特徴として対外的にも発信していく必要がある。

国際交流フェア、インドア・メーカーなど国際的イベントに加え、中央区で多文化共生フェスティバルなどが開催されているが、行事の広報も単発で個々にされており、統括的に集約されていないために、認知度が低い現状である。まずは、市のホームページなどに、多文化共生と国際理解に関わる行事や事業を集約し、神戸の誇るべき特徴を国内外に発信すべきだと考える。

### 4. 医療産業の連携に対する提言

#### ① リヨン・ビオポールと神戸医療産業都市の連携

久元市長にトップセールスを行っていただいた経緯もあり、在リヨン領事事務所も医療分野での連携には非常に前向きなコメントをもらっている。チャンスを

活かすためにも、リヨン・バイオポール関連の次の2回の訪日の機会をとらえ、神戸に立ち寄ってもらい、医療産業都市の視察や、あるいは、具体的な企業や機関とのミーティングなどを企画できるよう、調整を願いたい。先方は、iPSなどの再生医療に大変興味を持たれており、訪日の際に足を伸ばすことは、十分可能性があると言われていた。

- 2016年4月 I careクラスターが、東京・大阪・神戸のヘルスイノベーションツアーに参加
- 2016年10月 東京バイオジャパンにリヨン・バイオポールが出展

## 5. 環境技術クラスター創成に対する提言

### ① 神戸市内の環境技術を有する企業のクラスター

ローヌ・アルプ州の環境産業クラスター、アクセラは、地域や自治体が必要とする環境施策について、環境に特化した技術を持つクラスターのメンバー会社が、官民連携した資金調達によって、与えられたテーマに沿って課題解決を図る技術を共同開発し、結果として各企業が課題解決のイノベーションという果実を受け取る仕組みとなる。COP21も「パリ協定」でスタートし、今後、環境への取り組みが政策予算や投資、自社内の設備投資などの形で資金面でも具現化することも予測される。神戸の企業で連携した環境技術クラスターを形成し、イノベーション創出につなげられないか。

## 6. 兵庫県パリ事務所を拠点とした観光・ビジネス交流の発展

### ① 人的交流の拡大

兵庫県はセーヌ・エ・マルヌ県と学生、研修生の交流があり、兵庫県からは毎年1名が渡仏し、フランスからは毎年2名が経済の勉強に来日している。様々な分野で兵庫県と連携しながら、このような人的交流をさらに拡大したい。できれば、学業を終えたのちに就職したり、起業したりする人材を育成していきたい。フランスでは専門学校が充実しているので、神戸高专や神戸市外国語大学などへの留学生受け入れや、神戸市からの留学生派遣も進めたい。

### ② モンマルトルの丘／北野・山本地区交流をベースにした発展

神戸市中央区北野・山本地区とモンマルトルの丘は、2005年4月に友好交流協定書を調印している。北野・山本地区とモンマルトルの丘は地理的条件などが大変似ていることから始まったこれまでの10年の交流実績を踏まえて、具体的にお互いのメリットになる観光交流事業を始めていく必要がある。



まず、食文化の交流については、ワイン、酒、神戸ビーフなどのイベント時の販売交流などから始め、将来的にはアンテナショップを構えるようなことも考えていけたらいいのではないだろうか。毎年10月にモンマルトルの丘で開催される秋のワイン祭りに焦点を合わせて、具体的に企画をスタートさせたい。神戸日仏協会会長が日本酒の関係者であることを強みとして、神戸の灘五郷の酒とフランスのワインとの交流販売などは実現可能性が高い。神戸ワインの売り込みも並行してできれば、さらなる発展が望める。

人的交流が全ての交流の源になることを考え、具体的に芸術家たちの交流も始めることができると考える。お互いの受け入れ体制整備や、作品の交換展示については、現在の北野美術館での展示を含め、さらに拡大したい。ウエディングのまちとして売り出している神戸の一面を捉え、結婚式をタイアップする企画などは、PR効果が高く魅力的なものになる。

## 7. 市長のフランス訪問に際して

### ① モンマルトルの丘

来年のマルセイユ市との姉妹都市提携55周年交流事業にあたって、市長が訪仏される際には、日程の調整が可能であれば、モンマルトルの丘観光協会にお立ち寄りいただきたい。神戸との友好関係をさらに強いものにするためにも、市長を「名誉市民」としてお迎えしたいという意向が示されている。

### ② リヨン・ビオポール

同時期に、神戸との医療産業連携を進めるために、前回リヨンでお目にかかれなかったリヨン・ビオポールをご訪問いただきたいと要請を受けた。